

ミyakumiyaku、HANA ら 2025 年の象徴 10 組が 自身の行動を語る授賞式。Public of The Year2025 を発表

ミyakumiyaku / 山下浩平、HANA、遠藤航、村竹ラシッド、鈴木俊貴、王谷晶、袴田ひで子、藤本壮介、河合祐子、井田奈穂（敬称略）10 組が受賞



株式会社 PR TIMES（本社：東京都港区、代表取締役：山口拓己、東証プライム・名証プレミア：3922）は 2025 年 12 月 2 日(火)、社会を動かした人物とその行動を、その年の象徴としてたたえる「Public of The Year2025」授賞式を開催（メイン MC：江口洋介、司会進行：中川安奈）。「芸能・スポーツ」「学術・文化」「企業・事業」の 3 部門 10 組の受賞者を発表いたします。

【特設サイト】 <https://prtimes.jp/public-of-the-year/>

1 人の、その行動が、できそうにないことを実現していく。
多くの人の希望や力になり、企業や組織や社会を動かしていく。
そして新しい不可能を可能にし、社会をつなげていく――。

その年を象徴する人物と、その行動を振り返ることで、
世の中を動かしているのは一人ひとりの行動だと、
誰もが体感できる社会を「Public of The Year」は目指しています。



Public of The Year

2025 受賞者

【芸能・スポーツ部門】

ミyakumiyaku / 大阪・関西万博 公式キャラクター
山下 浩平 / デザイナー・絵本作家

<選考の理由>

2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の公式キャラクター「ミyakumiyaku」は、当初の「賛否両論」や批判を乗り越え、議論を巻き起こしながらも、唯一無二のキャラクター性によって人々の感情を揺さぶり、結果的に今年の象徴的な出来事である大阪・関西万博の「顔」となる歴史的な存在となりました。この背景には、「ミyakumiyaku」のデザイン作者である山下浩平氏の、丁寧に魂を込めてつくったものは、時間が経ってもきちんと伝わるという信念のもと、緻密な企画と地道な努力を積み重ねたという行動があります。山下氏が「ミyakumiyaku」のデザインを生み出すに至るまでの行動と、「ミyakumiyaku」が周囲と作り上げた熱狂的な「つながり」は、社会に新たな価値を創出しました。

<プロフィール（ミyakumiyaku）>

35 億年前に細胞と水がひとつになったことで生まれた、ふしぎな生き物。2022 年に大阪・関西万博の公式キャラクターに選出され、その後、公募により愛称が「ミyakumiyaku」に決定。赤い部分は「細胞」で、分けられたり、増えたりする。青い部分は「清い水」で、流れる様に形を変えることができる。特技はだれとでも仲良くなれることで、生き物はみんなともだち。ほかに踊る事と雨上がりに虹を見つける事も得意。



©Expo 2025

<プロフィール（山下 浩平）>

1971 年生まれ。大阪芸術大学美術学科卒業。グラフィック・キャラクターデザインを中心に様々な制作を行いながら絵本などの創作を行う。『きょうりゅうゆうえんち』（ポプラ社）、『ミyakミyakと… ミyakミyak誕生ものがたり』（フェリシモ）等著作多数。2025 年日本国際博覧会公式キャラクターデザイン最優秀賞受賞。ミyakミyakのデザイン、イラストレーション、コンセプトなどを制作。着ぐるみの設計などにも携わる。

HANA / アーティスト

<選考の理由>

多様な個性の尊重やルッキズムへの提言、そして「ありのままの自分を愛する」というメッセージを活動を通じて届けたガールズグループ HANA。特に若い世代の価値観に大きな影響を与え、社会に新たな価値観を創造するきっかけとなりました。デビュー後もヒットを連発し、「Blue Jeans」が「オリコン週間ストリーミングランキング」で女性グループ史上初の 9 週連続 1 位となるなど、その存在感は大きなものとなっています。その行動は、純粋な人気だけでなく、多くの人々の心を動かし、未来へと続く行動の連鎖を生み出しました。



<プロフィール>

BMSG × ちゃんみな GIRLS GROUP AUDITION「No No Girls」より誕生した、CHIKA、NAOKO、JISOO、YURI、MOMOKA、KOHARU、MAHINA からなる 7 人組ガールズグループ。メジャーデビューから 2 作連続、異例のスピードでストリーミング 1 億再生を突破するなど、7 人の個性と等身大の姿で、自らの道を切り開く“次世代の象徴”として音楽シーンを席巻している。

遠藤 航 / プロサッカー選手

<選考の理由>

遠藤航選手は、サッカー日本代表主将として、日本史上最強と言われるチームをまとめ、世界最速で W 杯出場権を獲得し、来年に開催される本大会への期待を一層高めました。そして、所属する世界トップのクラブ・リヴァプールでは研鑽を重ね続け、クローザーという新たな形で、リーグ優勝を果たしたチームに大きく貢献しました。デュエルの勝負に絶対的な強さを発揮し、世界トップリーグを舞台に活躍する姿は、日本スポーツ界にパラダイムシフトを起こす存在となりました。

<プロフィール>

神奈川県出身のプロサッカー選手。プレミアリーグの名門『リヴァプール』に在籍し、2023 年 6 月からサッカー日本代表キャプテンに就任。高い戦術理解力と球際の強さ、リーダーシップを武器に世界最高峰の舞台で活躍。リヴァプールではプレミアリーグ優勝(2024-25 シーズン)の瞬間をピッチで迎えた。日本代表では、来年開催される『FIFA ワールドカップ 2026』の出場権獲得に尽力し、歴代最強と呼ばれるチームを牽引した。



村竹 ラシッド / 陸上男子 110m ハードル選手

<選考の理由>

今年 8 月に男子 110 メートルハードルで 12 秒 92 の日本新記録を樹立した村竹ラシッド選手。2025 年東京世界陸上では、世界の表彰台に 0.06 秒差まで肉薄した走り、日本中に大きな興奮と感動をもたらしました。レース直後に感情があふれ出す姿は、「ここまで本当に必死にやってきた者だけが示せる姿」であり、当たり前のことを高いレベルで実践する尊さを実感させ、社会をつなげ感動を呼び、「今年」のスポーツを彩る一つの象徴的なシーンでありました。村竹選手の行動が社会に感動と共感をもたらしました。



<プロフィール>

2002 年、千葉県生まれ。松戸国際高校から順天堂大学へ進学、2024 年に日本航空(JAL)へ入社。2024 年、パリオリンピックでは、日本人として初めて男子 110m ハードル決勝に進出し、5 位入賞を果たす。2025 年、日本グランプリシリーズ・福井大会で 12 秒 92 を記録し、日本人初の 12 秒台を達成し日本記録を更新。東京世界陸上では 5 位入賞。

【学術・文化部門】

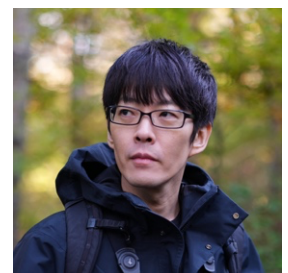
鈴木 俊貴 / 動物言語学者

<選考の理由>

長年鳥類の研究に取り組まれている鈴木俊貴氏は、シジュウカラの言語能力の証明という衝撃的な発見を成し遂げました。長年の自然観察から仮説を立て、それを検証した、まさにナチュラリストの本道ともいえる研究で、その内容を記述し、今年刊行されたエッセイを通じては、多くの人が科学本来の面白さを改めて認識する機会を生み出されています。鈴木氏の行動によって、「動物言語学」という新しい学問の創設、その新たな価値を生み出し、社会に広げられました。

<プロフィール>

東京大学准教授（東京大学卓越研究員）。1983 年東京都生まれ。野鳥の一種・シジュウカラに言語能力を発見。動物たちの鳴き声やしぐさの意味や文法構造を探究する新しい学問、『動物言語学』を創出。文部科学大臣表彰若手科学者賞、Tinbergen Lecturer Award など受賞多数。2025 年、自身の研究の歩みを綴った『僕には鳥の言葉がわかる』（小学館）を刊行。本作にて、書店員が選ぶノンフィクション大賞、新潮ドキュメント賞、河合隼雄学芸賞などを受賞。



王谷 晶 / 作家

<選考の理由>

王谷晶氏の著書である小説『ババヤガの夜』は、世界最高峰のミステリー文学賞である英国推理作家協会賞(ダガー賞)翻訳部門を日本人として初めて受賞する快挙を成し遂げました。ご自身の哲学である「曖昧」で親密な登場人物を描き、その独自の作家性と、はっきりとしたラベリングできない関係や人生を描く普遍的なメッセージが評価されました。また、同作が LGBTQ+文学の権威あるラムダ文学賞の最終候補に選出されるなど、作品のメッセージは言語や国境を超え、世界中の多様な読者の共感を獲得しました。

<プロフィール>

1981年、東京都生まれ。2020年刊行の『ババヤガの夜』は、第74回日本推理作家協会賞候補に選出。2024年刊行の同作の英訳版(英国版)は翌2025年、日本人初の快挙となる CWA ダガー賞翻訳部門を受賞。米国版はラムダ文学賞 LGBTQ+ミステリー部門の最終候補となった。他に『完璧じゃない、あたしたち』『君の六月は凍る』『父の回数』、エッセイ集『カラダは私の何なんだ?』。



袴田 ひで子 / 再審無罪を実現した元死刑囚・袴田巖氏の姉

<選考の理由>

袴田ひで子氏は、58年前の一家4人殺害事件で死刑が確定していた弟、巖氏の無実を信じて潔白を訴え続けてきました。その活動が実を結び、2024年10月、巖氏の無罪判決が確定しました。このことは個人の救済にとどまらず、遅滞として進まなかった日本の再審制度のあり方を見直す議論を促しました。また事件当時、巖氏を犯人視する報道をしたメディアの責任を問うことにもなりました。半世紀にわたり、巖氏のために諦めず戦い続けたその行動は、多くの人を勇気づけ、社会を動かししました。

<プロフィール>

1933年2月静岡県浜名郡雄踏町(現・浜松市中央区)生。6人兄弟の三女。1966年8月33歳の時3歳年下の末弟巖氏が、いわゆる袴田事件の犯人として逮捕され、その後死刑判決が下される。両親亡き後、獄中の巖さんを献身的に支え、2014年3月再審開始、昨年10月巖氏の無罪が確定する。現在、死刑判決の後遺症が続く巖氏と共に浜松で生活。巖氏の苦勞を活かしてほしいと再審法の改正や死刑廃止を訴えている。



【企業・事業部門】

藤本 壮介 / 建築家、藤本壮介建築設計事務所 代表取締役

<選考の理由>

2025年日本国際博覧会の会場デザインという国家的な大事業において、藤本壮介氏は多様な人々が集まる場の「公共性」と「一体感」を徹底的に追求し大屋根リングを設計しました。当初の設計から、「多様性を分断につなげない」という強い意志のもと、世界のパビリオンを円環の中に収めることで、交流が生まれる設計を確立しました。藤本氏は、2025年を象徴する万博のシンボルである大屋根リングを通じて、社会を包括的につなぐという公共的な価値を創出しました。

<プロフィール>

1971年北海道生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、2000年藤本壮介建築設計事務所を設立。2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞をはじめ、国内外での受賞経験多数。2025年日本国際博覧会では会場デザインプロデューサーを務める。2024年には「(仮称)国際センター駅北地区複合施設基本設計業務委託」の基本設計者に特定。主な作品に、House of Music Hungary、白井屋ホテル、L'Arbre Blanc、サーペンタイン・ギャラリー・パビリオン2013等がある。



河合 祐子 / 株式会社高知銀行 取締役頭取

<選考の理由>

今年、高知銀行の新たな頭取として河合祐子氏が就任。行内向けの発信や行員一人ひとりとの対話を重ねて組織の垣根を取り払い、高齢化や人口減少を始めとした地方の社会問題の改善に向けて力強いリーダーシップを発揮しました。また、全国で初めての地方銀行の女性頭取という、これからの日本社会における女性のロールモデルという意味でも、変革の先頭に立ち行動を重ねる河合氏の姿は、多くの方に勇気と希望をもたらしました。

<プロフィール>

京大法学部を卒業後、ケミカルバンク(現 JP モルガン・チェース銀行)入行。その後、日本銀行、三菱UFJフィナンシャルグループ子会社のJapan Digital Designを経て、2023年7月、高知銀行副頭取、2025年6月より頭取に就任。ペンシルバニア大ウォートン校卒業(MBA)。



井田 奈穂 / 一般社団法人あすには 代表理事

<選考の理由>

「選択的夫婦別姓」について、国民の意識・社会の環境が変容しつつあるその背景には、あすにはの活動と、それらをけん引されてきた井田奈穂氏の行動の積み重ねがあります。意識調査レポートの発表や署名活動、様々な団体との連携など、積極的な活動を通じた社会への働きかけは、制度見直しの機運を高め、社会が前に進むための確かな土台を築くものとなりました。

<プロフィール>

会社員の傍ら、2018年選択的夫婦別姓の法制化を目指す当事者団体を創設、2023年法人化。千人を超えるメンバー登録者、経済・法曹団体などとロビー活動を協働。2024年国連女性差別撤廃条約に基づく日本審査にNGOとして参加。同年、団体はForbes JAPAN「いま注目のNPO50」、Think Name Projectでは世界三大広告賞に選出。2025年6月17日衆議院法務委員会でも参考人に。



「Public of The Year2025」メイン MC：江口洋介

1986 年俳優デビュー以降、テレビドラマ「ひとつ屋根の下」「救命病棟 24 時」など数々のドラマ、映画に出演。近年の作品に、Netflix「忍びの家 House of Ninjas」、WOWOW「連続ドラマ W 誰かがこの町で」、EX「誘拐の日」などがある。映画『TOKYO MER 走る緊急救命室 南海ミッション』、『沈黙の艦隊 北極海大海戦』が公開中。



「Public of The Year2025」司会進行：中川安奈

2016 年 NHK 入局。サンデースポーツやオリンピック・W 杯中継などで活躍。2025 年 3 月に退局し、4 月よりフリーアナウンサーとして多方面で活動中。



「Public of The Year2025」審査員

(審査員のプロフィール詳細は[こちら](#)をご覧ください。)

【企業・事業部門】



日本経済団体連合会
副会長・事務総長
久保田 政一



朝日新聞東京本社
ゼネラルエディター 兼
東京本社編集局長
春日 芳晃



読売新聞東京本社
執行役員 メディア局長
滝田 恭子

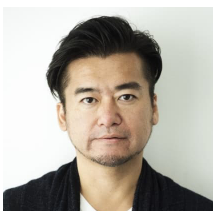
【学術・文化部門】



国立科学博物館 館長
篠田 謙一



毎日新聞社
執行役員 編集担当
坂口 佳代



株式会社マガジンハウス
執行役員 BRUTUS 編集長
田島 朗

【芸能・スポーツ部門】



日本スポーツ協会
副会長
三宮 恵利子



株式会社文藝春秋
執行役員 Number 編集局長 兼
ライフスタイル編集局長
松井 一晃



株式会社朝日新聞出版
AERA ブランドプロデューサー
木村 恵子



未来のテレビを考える会
代表理事 兼
静岡新聞社・静岡放送 CCIO
西田 二郎

Public of The Year ステートメント

1 人の、その行動が、
できそうにないこと、
想像もしていなかったことを実現し、
その事実により多くの人が励まされ、
多くの人の希望や力になり、
企業や組織や社会を動かしていく。
そして新しい不可能を可能にしていく。

1 人の、その行動が、
人を超えて、業種を超えて、国を超えて、
世の中にひろがっていくような手応えを多くの人が感じ、
同じ時代につながって生きていることの
意味を確かめられる。

1 人の、その行動が、
つぎの 1 人の行動を生み、
さらに新たな行動を生み続けていく。
その年、その時代を象徴する人を、その行動をたたえたい。

プロジェクトチームより受賞者発表にあたって

株式会社 PR TIMES PR パートナーサービス B グループ 第四チーム 須田 良祐

私がこのアワードに携わったきっかけは、行動を起こせていない自身にとって、またとない変わる機会と思ったからという自分本位な動機からでした。そのおかげもあってか、審査を経て、候補者の方々に受賞通知をお送りする際には、その方が大切に紡いできた確かな想いや、これまでに積み重ねてこられた確かな一歩に意識を巡らしてきました。それらに触れる瞬間には、その出来事を知っている人も知らなかった人も、きっと自分のことのように大事に思えるような力があると思います。そして、事件やスキャンダルにはない、温かくて、自分も勇気をもって一歩を踏み出したいと思えるような力もあると感じています。私自身、大きく変わったとはまだ言えませんが、変わるための行動を続けていきたいと思っています。そして、Public of the Year を通じて、同じように一歩を踏み出したいと感じていただけている方の存在に想像を膨らませていきます。



株式会社 PR TIMES 第二営業部 オンボーディングチーム 重富 太吉

Public of the Year の運営に携わるにあたり、当初の私は「この経験を通じて成長したい」という思いを、どこかで手放せずにはいました。しかし、受賞された 10 組の行動者の方々が向き合ってきた現実に触れる中で、その意識は大きく変わりました。社会の複雑さや孤独な葛藤を抱えながらも、それでもなお一歩を踏み出す方々がいます。その姿を想像しきれなかった私に、行動者の皆さまは「自分の世界の外側にある景色」を見せてくださいました。最初はどれほど小さな一歩でも、誰かの未来を確かに変えていく、その事実により心を揺さぶられ、私自身の行動の基準も自然と変わっていきました。

Public of the Year は、行動者の想いを、次の誰かへと静かに手渡していく場でもあると考えています。今年の受賞者の言葉が、かつての私のように立ち止まっている誰かの背中を、そっと押す力になればと願っています。私自身もこれから学びと変化を重ねてまいります。



株式会社 PR TIMES について

行動を起こした人をたたえ、その情報を伝えることで、次なる行動者が生まれ、ポジティブな循環が社会を前進させていく。PR TIMES（読み：ピアールタイムズ）は、「行動者発の情報が、人の心を揺さぶる時代へ」をミッションに掲げ、「行動者」のポジティブな情報がニュースの中心となり、個人を勇気づけ前向きにする社会の実現に挑んでいます。

私たちは人の行動や頑張りの結晶を、その想いを紡いで発表するのがプレスリリースだと考え、企業規模を問わず「行動者」が自ら発信できる、PR の民主化を目指して事業を展開しています。プレスリリース配信サービス「PR TIMES」の利用企業数は 11 万 2000 社を超え、国内上場企業の 62% 超に利用いただいています。情報発表とその伝播を支援する他、生まれた企画が発表に至るまで前進できるよう支えるタスク・プロジェクト管理ツール「Jooto」、さらに発表後のお客様対応や情報整理を円滑に行えるカスタマーサポートツール「Tayori」など、「行動者」を立体的に支える事業を運営しています。